焼津市立総合病院広報誌

ひだまり
HIDAMARI

秋号
2022
vol.205

栄養科の新たな挑戦

栄養科スタッフ

目次

02-03 特集
「地域に寄り添う信頼の医療」

04 Hospital Now!!
「当院栄養科の新たな使命」

05 看護師は見た！「コロナ禍での入院生活」
レシピ de 元気！「秋鮭のホイル焼き味噌マヨだれ」

06 外来診療日一覧表（10 月 1 日現在）

07 病院からのお知らせ

08 ひだまり NEWS
「多発性のう胞腎専門外来開設のお知らせ」

より良い医療の提供を行うとともに、市民の健康増進に貢献することで、市民の信頼に応えます

特集 Topix

「地域に寄り添う信頼の医療」

病院経営戦略課経営戦略担当主幹　大畑　敦志

日頃より当院の運営にご支援、ご協力をいただきましてありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない状況で、不安を抱いて生活されている方が多くいらっしゃることと存じます。当院は、静岡県から新型コロナウイルス感染症に係る重点医療機関の指定を受け、専用病床を 18 床設置（9 月末現在）しており、これまでに 330 人を超える入院患者を受け入れるなど、日々、本感染症への対応を行っておりますので、引き続きご理解をお願いいたします。

急性期病院としての役割

当院は、急性期医療を担う志太榛原圏域の中核病院であり、地域医療支援病院、２次救急医療機関、認知症疾患医療センター、地域周産期母子医療センター等の機能を有する市内唯一の公立病院です。365 日・24 時間体制で実施している救急救命医療を始め、政策的な医療や高度医療を積極的に行い、地域や市民に信頼される病院として安心安全な質の高い医療の提供に努めています。

このコロナ禍においても、一次救急の対象である軽度な症状から、手術や入院を要する二次救急に対応するだけでなく、より高度な医療を要する三次救急の一部にも応じてまいりました。

医療分野では時代や社会の変化に対応するため、厚生労働省により２年ごとに診療報酬の改定が行われています。令和４年４月改定では、手術や救急医療等の高度かつ専門的な医療及び高度急性期医療の提供に係る体制を十分に確保している場合の評価として、新たに急性期充実体制加算※が設けられました。当院では、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症が拡大する状況下であっても急性期医療を必要とする方へ必要な医療を提供することが公立病院の果たす重要な使命であると考え、この改正にいち早く対応し、急性期充実体制加算の施設基準を取得しました。

※急性期充実体制加算の施設基準の取得条件として、それぞれ年間で救急搬送件数 2,000 件、全身麻酔による手術 2,000 件、緊急手術 350 件、悪性腫瘍手術 400 件、腹腔鏡下又は胸腔鏡下手術 400 件、異常分娩 50 件以上などの実績が条件となります。

【令和３年度　急性期充実体制加算への対応状況】

項　目	年間件数
救急搬送件数	4,036 件
手術件数	4,585 件
（うち全身麻酔による手術）	2,283 件
（うち緊急手術）	396 件
悪性腫瘍手術	454 件
腹腔鏡下手術又は胸腔鏡下手術	576 件
異常分娩（吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開術）	195 件

地域医療支援病院としての役割

当院は、静岡県知事より平成22年9月14日付けで「地域医療支援病院」の承認を受けました。

地域医療支援病院とは、地域の病院・診療所の医師から、より詳しい検査や、専門的な医療が必要と紹介された患者様に対して、適切な医療を提供することを目的に県知事の承認を受けた病院のことです。

また、24時間体制による救急医療の提供、地域の医療機関と連携をとり、病院の施設・設備を共同で利用できる体制、地域の医療従事者の質向上を図るための研修を行うなど、地域医療の中核を担う役割があります。

地域の医療機関との連携を今まで以上に強化し、充実させるとともに、地域全体の医療の質向上を図り、地域の患者様に、より良い医療を迅速に提供できるよう努めております。

1. かかりつけ医やその他の病院から紹介された患者様を積極的に受け入れています。また、一連の治療などが一段落し症状が安定した際は、かかりつけ医に紹介させていただきます。（令和3年度における紹介による患者受診者数は10,904人）

2. 二次救急医療機関として、救急患者の受入れを行っています。（令和3年度における救急患者数は15,752人）

3. 近隣の医療機関からの依頼を受け、CTやMRIなどの医療設備を共同利用し、検査の実施を行っています。（令和3年度におけるCT検査、MRI検査等の高額医療検査機器共同利用は1,916件）

4. 地域の保険医療及び福祉機関の医療従事者を対象に、症例研究会や勉強会などを開催しています。

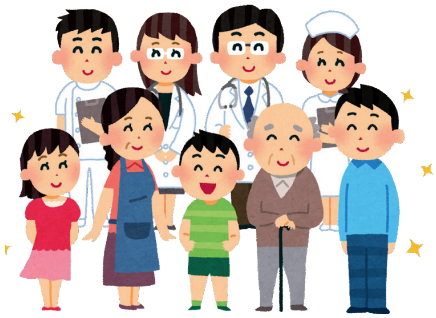
要望に応じて、他の医療機関や保健福祉機関に出向いて実施する「出前研修」も実施しています。

また、近年では住み慣れた地域での生活を継続させる支援も求められており、かかりつけ医等の他医療機関や介護事業所との協力も不可欠となっています。診療所等の紹介により患者様の状況に応じて可能な限りご自宅に戻ることを目指した計画が入院前から作成され、入院後スムーズに退院に向けた治療が開始されることも当院が目指す医療提供のひとつであります。

さらに、医師を始め医療分野の人材には限りがあります。特に地方ではそれが顕著になっており、人材確保が難しくなりつつあります。それに加え、医療現場での長時間労働が対策を急ぐ問題として取り上げられています。

感染症だけでなく高齢化や働き手の不足、働き方改革など社会が抱える課題が山積している中で、医療の提供を継続するためには地域の他の医療機関や近隣自治体の医療機関との役割分担も不可欠であります。そうした機能や役割の分化も現在進めており、新病院にも反映させようとしているところであります。

地域の医療を支える一医療機関として他医療機関との役割を明確にし、協力できる関係を築き地域にお住いの皆様の健康に寄与できることを目指してまいります。



「当院栄養科の新たな使命」

栄養科 科長　　野田　千保子

栄養科の取り組み

病院の「診療技術部」に所属している「栄養科」の取り組みについてご紹介いたします。

栄養科は、ヒトが生きていく中でとても必要な項目である「栄養」から病気やけがに関わっている部門です。当科の重要な役割の一つに患者様の栄養管理を通して治療を促すことが挙げられます。

管理栄養士は、入院患者様に対して、一人ひとりに適した栄養状態を改善するためのメニューを提案します。そして個々に合った食形態で食事の提供を行い、患者様が召し上がった食事量を確認します。その後、客観的に栄養状態を評価し、栄養量が充足されるようメニューを工夫しています。

令和４年度、厚生労働省が改定した診療報酬では、「周術期栄養管理実施加算」が新設されました。これは、管理栄養士が患者様の術後回復に向けて、手術前から認定資格がある専門性の高い管理栄養士の介入で患者様の治療継続をサポートする項目となっています。

生活習慣病の改善や手術後の「元気になるための栄養」は、早期の社会復帰に向けて欠かすことはできないものです。これまで、管理栄養士と調理師が連携を取り入院患者様の早期治癒のサポートに、日々関わってきました。今後、管理栄養士は今以上に病棟に出向き、病棟スタッフとも連携して栄養管理計画を作成する役割が増えていきます。そして、多職種協働のチーム医療を実践するよう取り組んでいきます。

新たな取り組み

日頃より安全でおいしい食事提供を目標に掲げ励んでおります。

昨年度、産婦様に提供している「お祝い膳」（退院前日昼食）をリニューアルしたところ、産婦様から好評価の声を聞くことができました。それがきっかけになり、「調理師の専門スキルを活かした治療食でない特別な産婦食を楽しんでもらいたい」と調理師の意欲も高まりました。今年度は、更なる周産期の産婦様の食事メニューの見直しを目標としております。

年々出産数が減少している現状ですが、出産後から始まる子育ての活力にしてもらいたい願いもあり、出産後３日目以降（手術を要した場合は５日目以降）３日間の昼食に提供する「お祝い膳」メニューの一新を進めています。日頃の食べやすさ重視の食事のイメージを覆すアイデアで、特別な食材や食器での提供を考案中です。調理師の技術を凝らしたメニューで、大切なご家族誕生を祝い応援する想いも込めて、産婦様が少しでも癒やされますよう、おもてなししたいと考えています。

栄養科の「新たな使命」として多職種スタッフと相互に連携し、患者様の治療に貢献できるよう努めてまいります。

焼津市立総合病院広報誌 ひだまり HIDAMARI

コロナ禍での入院生活

6A 病棟看護師　稲葉　千紘

コロナ禍に入り３年目、新たな生活様式が確立してきました。始まりは２年前。その頃私は妊婦でした。スーパーやドラッグストアからマスクや消毒液、ハンドソープが消え、赤ちゃん用のガーゼや体温計もお店から消えてしまい、家族総出で探し回りました。

コロナ禍に入って話題になったのが「おうち時間」です。外出を控え自宅にいる時間がこれまでより増えました。自宅で楽しい時間が過ごせるよう、様々な商品があり、また自宅で出来る娯楽が注目されています。私は今年の夏、息子の甚平を作ることを目標にしました。しかしながら常に三日坊主の私は、布の型取りをしたところで止まっています。来年着られればいいよねと自分を納得させ、家のミシンを眺めています。

さて、おうち時間ならぬ「入院時間」。入院している患者様にとっても、この２年で入院生活の過ごし方は大きく変わりました。これまでとの大きな違いの１つに面会があります。感染拡大防止のために、現在面会は原則禁止されています。今までの面会のあり方は、患者様にとって大切な家族に会える時間であり、つらい治療を乗り越えるための大きな励みになっていました。家族にとっても、入院している患者様に会うだけで安心感に繋がっていたと思います。コロナはその機会を奪ってしまいました。現在私は、外科病棟で働かせていただいていますが、よく患者様から「家族と会えないのは寂しいね」「やることなくて暇だね」なんて言葉がよく聞かれます。ご家族には、荷物の受け渡しをする際に患者様の様子をお伝えするようにしています。ご家族からも心配なことや聞きたいことがあれば、看護師にいつでもお声がけ下さい。

手術や治療を終えて体調が回復していくと、ふと何をしたらいいかわからない時間があります。趣味がある方はその物を持ち込んで病室でやってみてもいいと思います。また医師の許可がある方は、シャワー浴も可能です。ご希望があれば洗髪や足湯も OK です。自分で入れない方は看護師がお手伝いしますので遠慮なく申し出て下さい。身体も、心もすっきりすると思います。

病院は病気を治す場所ですが、患者様の生活空間でもあります。入院生活が少しでも快適なものになるよう、今後もスタッフ一同一生懸命取り組んでいきます。

「秋鮭のホイル焼き味噌マヨだれ」

4人分	鮭	60g × 4切	A	赤味噌	大さじ 2
	白葱	80g		みりん	小さじ 2
	人参	40g		マヨネーズ	大さじ 2
	えのき茸	60g	アルミホイル		適宜

熱量153kcal、蛋白質15.5g、脂質7.6g、塩分1.4g

1. 鮭は水気を拭く。
2. 白葱は斜め薄切り、人参はせん切り、えのき茸は長さを２等分する。
3. Aの調味料を合わせる。
4. アルミホイルを魚を包めるサイズに切り、中央に鮭と野菜を置き、③をかけて包む。
5. フライパンに④を並べお湯を注ぎ(1/2カップ位)、蓋をし途中でお湯を足しながら鮭に火が通るまで15分程度加熱する。

★濃い味噌だれがかかるので、鮭に下味はつけなくても美味しくいただけます。魚の臭みが気になるようでしたら酒(分量外)をふってください。

問合先　栄養科　054－623－3111(代)

外来診療日一覧表

2022年10月1日現在

診療科	午前 月	午前 火	午前 水	午前 木	午前 金
総合診療内科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
腎臓内科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
呼吸器内科（紹介状必要・予約制）	○	○			○
血液内科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
消化器内科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
循環器内科（院内他科依頼）		○	○	○	○
代謝内分泌内科（紹介状必要・予約制）	○		○	○	○
脳神経内科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
精神科（新患受入休止）	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○
整形外科（予約推奨）	○	○	○	○	○
形成外科（紹介状必要・予約制）	○		○		○
脳神経外科	○	○	○	○	○
皮膚科	○	○	○	○	○
泌尿器科	○	○	○		○
透析	○	○	○	○	○
産婦人科（予約制）	○	○	○	○	○
眼科	○	○		○	○
耳鼻咽喉科（紹介状必要・予約制）	○	○	○	○	○
放射線科（予約制）			○		○
歯科口腔外科	○		○		○

◆受付時間
- 午前　8時00分～11時00分　（再来受診）8時00分～ 11時30分
- 午後　12時30分～15時00分

◆予約受付
054-623-3111（代表）　※受診科をお知らせください。
※午後の診察はすべて予約制です。ご注意ください。

◆外来担当医表
外来担当医表については、毎月1日付でホームページを更新していますのでご覧ください。また、病院受付窓口でも毎月1日から配布しています。なお、都合により担当医や担当日が変更になることがあります。

◆各種相談（予約制）
- 緩和ケア・がんよろず相談　月～金曜日（休診日を除く）9時00分～ 16時00分
- 退院後の療養、介護に関する相談　月～金曜日（休診日を除く）9時00分～ 16時00分

予約受付　054-623-3111（代表）内線：2090　地域医療連携室医療相談担当

○…診療日　　検…検査

午後（予約制） 診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科（紹介状必要）	○	○			○
血液内科（紹介状必要）		○		○	○
消化器内科（紹介状必要）		○	○	○	○
循環器内科（院内他科依頼）	○	○	○	○	○
代謝内分泌内科（紹介状必要）	○	○		○	
脳神経内科（紹介状必要）	○		○	○	○
精神科（新患受入休止）	○	○		○	○
小児科	○	○	○	○	○
形成外科（紹介状必要）	○				
産婦人科	○検		○検	○	
泌尿器科			検		検
透析	○	○	○	○	○
耳鼻咽喉科（紹介状必要）	○		○	○	
歯科口腔外科	○		○		○

特殊外来　完全予約制　△午前　□午後　一部毎週開催していない外来もあります。詳しくはお問い合せください。

特殊外来（完全予約制）		月	火	水	木	金
腎臓内科	膠原病・リウマチ（紹介状必要）				□	
	多発性のう胞腎（紹介状必要）				□	
	糖尿病性腎症パス（紹介状必要）	△□		△□		
脳神経内科	認知症外来（紹介状必要）				△	
小児科	心臓				□	
	エコー					□
	すこやか			□		
	療育支援			□		
	川崎病				□	
	乳児検診	4ヶ月児 10ヶ月児	1ヶ月児			
	シナジス	□				
外科	スキンケア				△□	
	乳腺	△□				△□
	血管外科					第1・2・4 △
	呼吸器外科			△□		
	心臓外科					第2・4 □
形成外科	レーザー	□		□		
脳神経外科	脳卒中		□			
産婦人科	不妊治療	△	△	△	△	△
	助産師	△□	△□	△□	△□	△□
	妊婦外来	□		□	□	
その他	アロマ		□			

◆他院に通院中の方
紹介状不要の診療科であっても、すでに他院に通院中の方は紹介状が必要な場合があります。詳しくは問い合わせてください。

焼津市立総合病院は「研修医」を育成する病院です

総合研修指導室総合研修指導担当係長　　八木　洋子

数年前、地元の高校生を対象に、研修医についてどんなイメージをもっているのかアンケートをとったところ「テレビドラマみたい」「救急診療をしてくれる若い先生」「かっこいい」「医学生の研修」「見習い勉強中」「憧れの存在」等、様々な回答をいただきました。この回答の中には正解もあれば不正解も含まれています。研修医は「研修」という響きから「学生」とか「見習い」と想像する方もおられるかもしれませんが、研修医は医師国家資格に合格をした一人前の医師です。医学生でも見習いでもありません。

そもそも医師という仕事は研修医に限らず、日々研鑽をつみブラッシュアップを重ねます。研修医もベテラン医師も「研鑽をつむ」という点では、同じかもしれません。2017 年に 105 歳で死去した日野原重明氏は、100 歳を超えても現役の医師として、診療や後輩育成に尽力しました。生前彼は「医学以外のところで患者さんの心の支えになることが、本当の医術ではないか」と語っています。何千何万という症例に携わり、世界レベルの研究を重ねてもなお、本当の医術を求め研鑽をつみました。

日々研鑽をつんでいます

当院での初期臨床研修医の育成は、平成 16 年から研修医 3 名を迎えスタートしました。当時は、研修病院としての知名度もまだまだ低く、医学生のリクルート活動のために、東京～九州と医学生に会いに足を運びました。その後、口コミや先輩からの紹介、研修プログラムの改訂、協力病院との連携など徐々に研修病院としての知名度もあがり、今では毎年 10 名以上の研修医が当院にやって来るようになりました。

初期臨床研修医は、2 年間を通して、内科（総合診療内科、腎臓内科、消化器内科、脳神経内科、循環器内科）28 週、外科 8 週、小児科 4 週、麻酔科 4 週、救急室 8 週、産婦人科 4 週、精神科 4 週、地域医療研修 4 週を必修科目としてローテーションし、さらに 32 週間の選択研修（希望の診療科での研修）を実施しています。具体的には、採血点滴などの処置、外来問診、病棟では指導医とともに治療方針をたて、カルテ記載、紹介状や診断書の作成、病状説明……と医療を実践します。特に救急外来では、最前線で患者様の診療にあたり、焼津の医療に貢献しています。

平成 16 年から現在に至るまでに、206 名の研修医が焼津を巣立っていきました。そのうち、現在 13 名が常勤医師として、9 名が非常勤医師として勤務しています。研修医の育成は、指導担当医師だけが行うものではありません。看護師や薬剤師・検査技師などの医療スタッフだけでもありません。研修医は患者様の診療やご家族との関わりを通して、知識や技術、そして人の持つ生きる力、心の弱さと強さ、喜びと悲しみ、家族の絆、命の尊さ……等、多くのことを学びます。是非研修医を見かけたら声をかけてあげてください。皆様との関わりが、研修医を成長させ、焼津の医療を支える若い力となってくれると思います。

これからも、研修医育成にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ひだまり NEWS
HIDAMARI

「多発性のう胞腎専門外来開設」のお知らせ

腎臓内科 科長　　大浦　正晴

多発性のう胞腎（ADPKD）とは、腎臓にのう胞 (水がたまった袋) がたくさんできて腎臓の働きが徐々に低下していく遺伝性の病気であり、厚生労働省により指定難病とされています。わが国の患者数は約 31,000 人と推定されています。この病気は、両親どちらかからの遺伝により、または、両親に病気がなくても患者様が生まれるときに遺伝子の突然変異が起きることにより生じます。

患者様の多くは成人になってから症状がでますが、初期は無症状です。しかし、徐々に腎臓ののう胞が増えて腎臓全体が大きくなり、お腹が張ったり血尿が認められたり、のう胞に感染が起こることもあります。また、肝臓にものう胞ができてお腹が張ってくることもあります。その他に全身の合併症として、高血圧や脳動脈瘤（クモ膜下出血）が一般の方より高い頻度で起こります。

治療のひとつに、尿を濃縮するホルモンであるバソプレシンの V2 受容体拮抗薬（トルバプタン）の服用が挙げられます。この治療法では腎臓ののう胞が大きくなることを防ぎ、腎臓の働きの低下を抑える効果が見込まれます。

また、治療に加え日常生活で気を付けなければならない点もあります。脱水によりバソプレシンがのう胞を大きくし、病気の進行を速めることになるため適切な水分摂取が大切になります。さらに、高血圧や肥満も病気の進行に関わるので塩分制限などが重要となります。

適切な処置をせずそのまま放置した場合、徐々に腎機能が低下し腎不全となり、透析治療や腎移植治療が必要となります。この病気の患者様の約 50％は 60 歳頃までに腎不全になると言われています。しかし早期発見、早期対応により末期腎不全への進行を遅らせることが期待されます。当院では、2022 年 9 月の木曜日午後より「多発性のう胞腎専門外来」を開設しました。

多発性のう胞腎の診断を受けた方は、かかりつけ医とご相談のうえ、早期受診をご検討ください。

透析や腎移植へ進行させないために早期受診・治療をご検討ください。

［受診・予約方法］
・診察日：毎週木曜日午後（祝・休日は除く）
・受診には、かかりつけ医から当院宛ての紹介状が必要です。
　医療機関からの申込みのみとなりますので、かかりつけ医にご相談ください。
　患者様からのお電話での予約はお受けしておりません。

地域医療連携室

看護補助者（会計年度任用職員）募集

病棟や外来などで、患者様の介助や物品の準備などの業務を行う看護補助者（会計年度任用職員）を随時募集しています。詳しくはホームページをご覧いただくか、担当までご確認ください。

電話（054）623-3111（代表）　病院総務課　職員担当

広報誌ひだまりは、ホームページからもご覧いただけます。　http://www.hospital.yaizu.shizuoka.jp/

ひだまり HIDAMARI vol.205
焼津市立総合病院広報誌ひだまり 2022秋号
発行・焼津市立総合病院広報委員会
焼津市道原1000番地　TEL ／ 054-623-3111
ホームページアドレス／ http://www.hospital.yaizu.shizuoka.jp/